

第10章 それでも私は生きる。

人との共通の神は消失し、空なる世界と、無限の殻と、私の神（言葉だけの神）が残った。

そして私も世界と同じ空である。私になんであるか、私は知らない。

神は言葉として存在し、実体もない、私に何ももたらさない。私を見ているだけの存在である。ただ見ているだけの神である。

しかしすべてが消失したように思えても、まなざしだけが残っている。

関係を作る力が、生命を生んで、今ここに私がいる。

私を、超えようとする、私がいる。私の神と、つながろうとする、私がいる。

そして、私は、私として生きる。神に、見られながら生きる。

この文章は、空っぽな私と、空っぽな神を、無限を通してつなげるために作られた。

2020年12月4日 k. n o b u